

産業遺産

撮影／青木崇 貝原弘次
取材／文／伊藤順子 杉田裕路子 牧野しのぶ

この秋は兵庫の各市町のシンボルとして親しまれる産業遺産へ。かつての繁栄をしのばせる遺構から、現在進行形の工業施設まで、兵庫の近代化の歴史を刻み、大迫力のスケールだ。まずは魅惑の工場夜景ツアーを。

姫路の工場夜景ツアーへ。

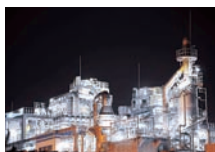
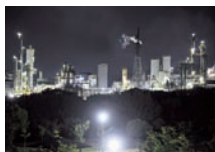
「日本触媒姫路製作所」の隅々まで光り輝く骨格に思わず歓声が。うっとり眺めたり、シャッターを切ったり。時間を忘れる。



[網干なぎさ公園]から見る[ダイセル化学工業]のパノラマ夜景は息をのむ迫力。「まるで工場を見るためにつくられたよう」な小高い丘から。

こんなツアー

- 18:00 JR姫路駅南ロータリー出発
- 18:30 姫路港から工場夜景クルージングへ⇒海から(日本触媒姫路製作所)などを見学(約60分)
- 20:00 バスで[網干なぎさ公園]へ⇒
[ダイセル化学工業]を見学
- 20:30 [エコパークあぼし]で夜のゴミ処理場を見学
- 21:00 [揖保川浄化センター]を見学
- 21:30 [日本触媒姫路製作所]を見学
- 22:30 JR姫路駅南ロータリー解散



海と陸の両方から工場を眺める約4時間30分のバスツアー。工場が夕日に輝くころ、坊勢渡船(オリオン)で姫路港から播磨灘へ。日が落ちると工場照明の明かりがボツボツと灯って美しい。バスでは公園の丘や橋の上などへ絶景を訪ねる。終電時間にご注意!

姫路市の臨海エリアは、阪神工業地帯の中でも鉄鋼や化学工場が特に集まるプラント天国。工場夜景のカリスマ写真家・小林哲朗さんが、自ら通い詰めて見つけたビューポイントを「神姫バスツアーズ」のナイトツアーで案内する。大きなタンクや複雑な配管、長身の煙突が夜間操業の明かりで輝く風景は、実に近未来的。大きな工場ほどいい観賞場所が意外に少ないもので、姫路の工場エリアはゆつくり眺められる場所が多く、写真も撮りやすいです。カメラファンの夜景を楽しむ人でツアーは盛況。小林さんが随時教えてくれる工場撮影のコツも興味深い。

8年前から工場の魅力に魅せられ、数々の作品を発表する写真家の小林哲朗さんは、尼崎市出身。写真集に『工場ディスカバリー』『廃墟ディスカバリー』(アスペクト刊・各2,310円)。



ベストスポットに案内します



姫路市工場夜景ツアー

ひめじこうじょうやけいツアー

☎079-224-1919(神姫バスツアーズ)
JR姫路駅南ロータリー集合(午後6時出発、午後10時30分散予定) 参加料/1人5,000~5,500円(1回募集45人・要予約) 開催日はHPで確認(月2回第2・4土曜日に実施予定) <http://www.tabitabi-hyogo.jp/goods/bc7000/>

あけのべ 明延



あけのべ自然学校

あけのべ自然学校 | 養父市

鉱山閉山で廃校になった明延小学校を再活用し、自然体験の場を提供する施設として平成元年に設立。小学生の自然学校や合宿のほか、明延鉱山探検坑道の案内の拠点に。全盛期を物語る鉱山で働く人の写真や鉱石などの資料も展示。探検坑道は入坑料(高校生以上630円、小・中学生210円)と案内料2,100円(ガイド1人につき見学者20人まで可)が必要。3日前までに要予約。

▷養父市大屋町明延1184

☎079-668-0258

午前8時30分～午後5時15分 ②20台
道案内 / 電車→JR山陰本線八鹿駅から全但バス、明延下車徒歩約7分 車→播但連絡道朝来ICから県道70号線～県道6号線で北西へ約50分



明延鉱山で活躍した(一円電車くろがね号)が復活。月1回(4～11月)の乗車体験日は70mの線路を走る。年内は9/1、10/6、10/20、11/3。定員20人の小さな車両も厚紙の切符もレトロ。

神子畑で採掘した鉱石を生野へ運ぶため明治18年に架けられた「神子畑鉄橋」は日本最古の鉄橋。



まず[明延鉱山学習館]にある坑内の模型で学習。その後、探検坑道を歩くので解りやすい。[第一浴場]は唯一残る共同浴場跡。



鉱山鉄道で結ばれた、3つの鉱山町へ。



朝来市旧生野鉱山職員宿舎・志村喬記念館(甲住宅)

あさごしきゆういくのこうざんしよくいんしゆくしゃ・しむらたかしきねんかん(こうじゆうたく) | 朝来市

築140年の鉱山職員官舎・社宅を再生し、平成22年に見学施設としてオープン。4棟の住宅が、それぞれ明治初期、後期、大正期、昭和初期から中期の時代に沿って修復され、変遷がわかる。大正期の建物は、この官舎・社宅出身で黒澤映画の名優・志村喬の記念館に。

▷朝来市生野町口銀谷697-1

☎079-670-5005

午前9時～午後5時(入館は午後4時まで) 入館無料 月曜(祝日の場合翌日)休 ④4台

銀山まち口番所

ぎんざんまちくちばんしょ | 朝来市

鉱山でにぎわった面影を残す口銀谷地区にある町の案内所。今年4月に[カフェ・アルジャン]がオープンし、町歩きの中でひと息つくのにお薦め。名物ハヤシライスは、昭和30～40年代に鉱山社宅で流行したハイカラな味を復活させた懐かしい味。自家製ケーキや紅茶、土・日曜は鉱山のフランス人技師・コワニエさんにちなんだキッシュも。

▷朝来市生野町口銀谷521

☎079-679-5155

午前10時～午後4時 月曜休 ⑤5台

ハヤシライスはサラダ付きで700円。[じっくり炒めた野菜と牛肉が調和したまろやかな味を]とスタッフの横野可奈さん。



生野



[生野への道案内] 電車→JR播但線生野駅から徒歩で各所へ ※[史跡 生野銀山]へは神姫グリーンバスで、生野銀山口下車徒歩約10分 車→播但連絡道生野ランプから各所へ(姫路方面から)



[明延鉱山]の探検坑道は約650m。閉山時まで使われた削岩機などの機械も当時をリアルに伝える。年間約12℃。夏は涼しく冬は暖かい。

昭和62年の閉山まで、日本一の錫の産出量を誇った明延鉱山。明治に日本初の官営鉱山として栄えた生野、神子畑とともに日本の近代化を支え、3鉱山と周辺は経産省の「近代化産業遺産群」に認定された。「身近な産業遺産を知ってもらおうと、坑道の部を残していただき、探検坑道としてご案内。当時の姿を見てもらえる工夫を」と「あけのべ自然学校」の高田和幸さん。薄暗くひんやりとした坑道を歩くと、まさしく探検気分だ。採掘された鉱石は神子畑に運ばれ、錫、銅、亜鉛などに選別。そして錫だけが生野の製錬所へ。明延と神子畑は昭和4年に6kmの鉱山列車で結ばれ、戦後には一般乗車も可能となり、乗車料1円にちなみ「一円電車」と愛された。その電車が復活したという話題も。「鉱石の道」で結ばれた各地を訪ね、かつて大変なにぎわいだった町の輝きを肌で感じたい。

鉱山の ある町へ。



神子畑

神子畑選鉱所跡

みこばせんこうじよあと | 朝来市

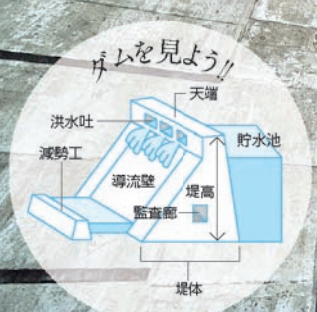
山の急斜面に75mの高低差で階段状に連なるコンクリート基礎と、直径30mの巨大な円錐形水槽。外からのみの見学だが、間近にするとスケールの大きさに圧倒される。明治10～30年に銀を採掘する神子畑鉱山として栄えた後、明延の錫を選鉱する施設に生まれ変わった。後に東洋一の規模に。隣の生野から移築された明治の洋館[ムセ旧居]も必見。

▷朝来市佐々木 ☎なし 道案内 / 電車→JR山陰本線新井駅から全但バス、神子畑下車すぐ 車→播但連絡道朝来ICから国道429号線で西へ約20分



ダム IS アート

水の遺産。



石井ダム いいダム 北区

新湊川の治水のため2005年に完成。神戸の街を洪水から守る頼もしい存在。ダムデザイン性、自然との調和にもこだわり、ダム最頂部の〈天端〉は気持ちのいい展望台に。ベンチやテラスからゆっくり眺めを楽しめる。天端のすぐ下に放水口(非常用洪水吐)がある(天端側水路)の構造。細部は堤体に付けられた階段から見上げることできる。

▶神戸市北区山田町下谷上

天端から貯水池を眺めれば、清々しい気分。逆の下流側には神戸の街が見え、トンネルを出た神戸電鉄の電車が、近くを走り過ぎていく。湖から吹き上げる涼風も心地良く、ベンチでお弁当を広げるのもいい。

神戸市北区の「石井ダム」は、全国でも珍しいレクリエーションダムとして、見学者を歓迎する仕掛けがたくさん。六甲全山縦走路に近く、ハイカーがひと休みするにも人気が高い。ダムへは神戸電鉄鈴蘭台駅から、菊水山登山道方面へ歩いて約40分。六甲山系の緑の中に現れる、巨大なコンクリートの〈堤体〉が迫力満点だ。高さ66mの最頂部〈天端〉にはベンチや花壇が整い、上流には水をたたえるダム湖、下流には神戸の街と海を見渡す絶景が広がる。さらに堤体は階段で下まで降りることができ、途中のテラスからダムの各部をじっくり眺められるうれしい演出も。全国でも4番目にダムが多いという兵庫県。建造物としても、ひと味違うハイキングとしても楽しんでみて。

菊水山登山口方面で順路に入ったら、案内板を参考に。[石井ダム][立ヶ畑ダム]の順で巡れば下り坂で楽。「ここはダムの貯水池内です」と表示されるように、洪水時に水没するエリアなので天候には注意。車では行けないのでハイキングの準備を。



立ち寄り、東山商店街へ!

[立ヶ畑ダム]から山を下って、約30分で神戸電鉄湊川駅に到着。途中で東山商店街のアーケードを通るので、気軽な買い食いがお楽しみ。[稲田串カツ]は大人も子どもも行列ができるほど人気の立ち食い串カツ。揚げ立てのサクサク串揚げを、特製ソースに付けて。1串80円。また[鼻知場商店]では、大きなガラスの器に入ったレモン水と冷やしあめが名物。水でキンキンに冷えた1杯で、疲れを癒やして。各1杯50円。

[稲田串カツ] ☎078-531-0409 午前9時～午後6時 水曜休

[鼻知場商店] ☎078-531-1823 午前10時～午後5時 不定休(8月無休)



天端中央の円柱状の建物は、水量調節の装置を収めた取水塔。漢字のレリーフや英語の銘板がマッチし、神殿のように優美。

立ヶ畑ダム

たちがはたダム | 兵庫区

[石井ダム]からさらに下流へ歩いて約40分。趣のまったく違った石張りのダムが現れる。明治38年完成の[立ヶ畑ダム]は、水道専用ダムとして日本で4番目に古く、国の登録有形文化財でもある〈重力式コンクリートダム〉。堤高は33.3mと小さめだが、丁寧に積まれた石づくりの側面、緩やかなアーチを描く天端、きれいな装飾の取水塔が見どころ十分。

▶神戸市兵庫区烏原町東山



神戸市の水道水源としてつくられた[立ヶ畑ダム]。100年の時を隔てて神戸の街を守る2つのダムを、歩いて巡るのは貴重な体験!



ミュージアムのようにため池を巡る。
「いなみ野ため池ミュージアム」 稲美町



加古大池(上)は甲子園球場の約12個分。県内で最も大きい。天満大池(下)は兵庫県最古のため池。675(白鳳3)年に築かれたという記録が残る。

農業や防火用の水を確保する(ため池)の数が兵庫県は全国一の多さ。中でも東播磨には約600ものため池が密集するが、近年は農業離れや住宅開発などの影響で維持が困難に。そこでため池のある風景を守り、地域全体を展示物に見立てるプロジェクト「いなみ野ため池ミュージアム」が始まった。本来の農業用水目的に加えて、地域の貴重な生き物や植物の生息地である水辺を守り、次の世代へ引き継ぐことが目的。「気軽に親しめるよう遊歩道の整備や、ボランティアによる清掃活動などを実施。ウインドサーフィン体験教室や淡水魚の試食会なども」と東播磨県民局・水辺地域づくり課の松本雅伸さん。穏やかな水面と調和する町並みは、なるほど一幅の絵のように美しい。

人さん。現在は運河沿いに散策道が整備され、波がないことを生かしてレガッタなど水上スポーツの名所にもなっている。「神戸が誇る運河の魅力をもっと伝えたい」と奥田さん。ワクワクさせる新しい水辺の風景が広がり、今後の進化も楽しみ。



「ひょうご観光ボランティア」も主宰する奥田さん。(兵庫七福神)へ清盛と大輪田泊など4つのコースで街を案内。

運河に 寄り添う。

水の遺産。

兵庫運河を渡るJR和田岬線の橋梁。航行を妨げないため、日本初の旋回式可動橋が設けられた。現在は固定されている。



運河の各所には水門が。大正13年に竣工されたレトロな石づくりの大輪田橋(左下)から見える、大輪田水門(右)。奥にはキャナルプロムナードが続く。築島水門(左上)の周辺には漁船が停泊し、(日本のベネチア)のような風景。

キャナル プロムナード 兵庫区

東の新川運河、南西の苅藻運河、中央の兵庫運河の3つの運河から成る(兵庫運河)。新川運河の水際には約300mにわたる遊歩道が。市民の憩いの場や散歩コースである他、「兵庫運河祭」などの地域イベントでにぎわうことも。運河中央の[浜山小学校]北側プロムナードは、レガッタの本拠地。大会開催時には多くの人でにぎわいを見せる。

▷神戸市兵庫区切戸町・材木町見学自由 ©なし

三宮からわずか15分で見られる、海や川とは違った水辺の風景。かつて商業が盛んだった運河に思いを馳せて歩けば感慨深い。



加古大池(写真上)

▷加古郡稲美町加古1678 見学自由 ©70台 道案内 / 電車→JR神戸線加古川駅から神姫バス、五軒屋下車徒歩約5分 車→第二神明道路明石西ICから北へ約13分



天満大池(写真下)

▷加古郡稲美町六分一1179-1 見学自由 ©40台 道案内 / 電車→JR神戸線土山駅から北東へ徒歩約15分 車→第二神明道路明石西ICから北西へ約5分

七福鮓 しちふくずし

全国の魚を多彩に扱う仲卸業者がひしめき、鮮度自慢の魚介がそろう市場でひと休み。市場2階には、肉厚の明石タコ、1時間かけてふっくら炊いた煮アナゴ、身が透き通るようなイカなど、ネタの良さが自慢の寿司処が。お昼のおまかせコース1,575円は、握り7貫と細巻き、赤だし付き。



▷神戸市兵庫区中之島1-1-4 神戸市中央卸売市場関連中央棟2F ☎078-671-1414 午前9時~午後2時 日曜、祝日休 ©あり

和田神社 わだじんじや | 兵庫区

平清盛が大輪田泊完成を祈願して、安芸の宮島より勧請した市杵嶋姫大神を祀る。兵庫津の開港以降は、多くの漁師や廻船問屋が、海難事故の多い兵庫津での無事をお参りに訪れた。運河の開削工事をを行った神田兵右衛門の功績を伝える彰徳碑が境内に。

▷神戸市兵庫区和田宮通3-2-45 ☎078-652-1551 参拝自由 ©あり





2階のライブラリーは、アーチ型の窓、重厚なカーテンレール、光が降り注ぐ天井のステンドグラスもホテル開業当時からのもの。秋恒例の〈六甲ミーツ・アート芸術散歩〉では、今年も会場のひとつに。1階ロビー（右下）や階段も総じてクラシカル。ソファに腰かけて心安らぐひとときを。



六甲山ホテル旧館

ろっこうさんホテルきゅうかん | 灘区

【宝塚ホテル】の分館として1929年に開業し、六甲山の歴史を見つめてきたホテル。設計は明治末期から戦前にかけて六甲山麓に花開いた文化〈阪神間モダニズム〉を代表する建築家の古塚正治。2階ライブラリーに残るイスは、実業家・小林一三が長期滞在に用いたとされています」と営業企画の豊島昇さん。木の温もりに包まれ、古き良き時代に思いを馳せたい。



緑に包まれた旧館外観は、英国リゾート地の山荘を思わせる。今は閉鎖されたエントランス前にたたずむと、まるで時が止まったかのよう。



▷神戸市灘区六甲山町南六甲1034
☎078-891-0301
午前9時～午後8時 チェックイン午後2時
/アウト午前11時 @150台 道案内/電車
→阪急六甲駅から阪急バス、六甲山ホテル前下車すぐ 車→阪神高速北神戸線から東出口から裏六甲ドライブウェイを経て南へ約10分



3階の屋上には、かつて宿泊客がくつろいだルーフガーデン。南には1万坪の緑の庭園、北には六甲山の眺望が広がる。建物の装飾も美しく、内外のあちこちに打出の小槌のレリーフが。「込められた意味は謎」というが、その分想像が膨らむ。浮き彫り状の模様のタイルも実にオシャレ。



武庫川女子大学 甲子園会館

むこがわじょしだいがく こうしえんかいかん | 西宮市

1930年誕生の【甲子園ホテル】を武庫川学院が譲り受け、教育施設に再生して48年。設計は建築家F・L・ライトの愛弟子・遠藤新。当時は〈東の帝国ホテル、西の甲子園ホテル〉と称され、皇族や政財界人の社交場だった。「建物の魅力を知ってもらう目的で、90分の案内付きの見学日も」と庶務課の芦田真砂子さん。打出の小槌の意匠、伝統の緑釉瓦など職人技にため息。



表玄関は両側の塔が、横長の外観を引き締める。中央の入り口から建物は東西に分かれ、東ウイングでは建築学科の学生が学ぶ。



▷西宮市戸崎町1-13
☎0798-67-0290
(平日の午前10時～午後4時対応)
見学可能日はホームページ(<http://www.mukogawa-u.ac.jp/~kkcampus/>)の〈見学カレンダー〉を確認 ※要予約 ②なし 道案内/電車→JR神戸線甲子園駅から南へ徒歩約10分 車→阪神高速神戸線西宮ICから北西へ約20分



クラシックホテル遺産。

Classic!!

かつて関西を代表するホテルとして愛されたレトロな洋館が、名建築として今も残っている。日本の産業発展を物語る存在として、経産省の〈近代化産業遺産〉にも認定。和の要素が巧みに取り入れられた、美しい空間を訪ねよう。

【甲子園会館】右上/1階のパンケットホールは、水玉と打出の小槌が連なるデザインの石膏に金の装飾がまばゆく、厳かな雰囲気。左上/宿泊客がカードゲームやビリヤードに興じた遊戯室。半円窓のフレームは往時のまま。左下/バレットをひっくり返したようなカラフルなタイルは、バーだった空間の床に。創業年を刻む。

高級感のある赤いシートは当時の写真をもとに復刻。車内では運行時の貴重な映像も上映。



手柄山交流ステーション

てがらやまこうりゅうステーション | 姫路市

姫路大博覧会の開催に合わせて昭和41年に開通した姫路モノレール。「騒音対策、自動列車停止装置などを備えた最先端の乗り物でした」とスタッフの青木正典さん。昭和49年の廃止以降、プラットホームや車両は手柄山駅舎に眠っていたが、2年前に駅舎が改修され展示を開始。当時の駅風景も再現し、まるでタイムスリップしたかのよう。



レールと同じ高さから勇壮な車両を眺めることもできる。「実際に使っていたレール上で車両を展示できるのも元駅舎ならではの、全国的にも貴重な展示と注目されています」。

姫路市営モノレール
車両使用 / 1966~1974年
姫路駅~大將軍駅~手柄山駅間を運行



姫路大博覧会開催時のポスターや広告は、今見てもポップで目を引くデザイン。



▷ 姫路市西延末440
☎079-299-2500
午前9時~午後5時 見学無料 火曜(祝日の場合翌日)休 @550台 (他施設と共有) 道案内/電車→山陽電車手柄駅から西へ徒歩約10分 車→姫路バイパス中地ランプから北東へ約5分



JR姫路駅までの間には、モノレールの橋梁が遺跡のように断片的に現存。今は無きレールを心の中でつないでみるのもおもしろい。

姫路の町を走り抜けた(夢の乗り物)モノレールをはじめ、かつて活躍した車両やホームが、今も展示されている。当時の話題をさらった、最先端のカッコいい乗り物に、合いに行こう。

懐かしい。乗り物が。

小寄公園 こよりこうえん | 東灘区

明治43年から昭和46年まで運行していた神戸市電。暗色系の塗装が主流だった戦前において、いち早くライトグリーンとダークグリーンのツートンカラーを採用。美しい車両ときめ細やかなサービスで「東洋一の市電」と親しまれた。[小寄公園]には廃止直後から車両が保存され、当時の姿に思いを馳せることができる。



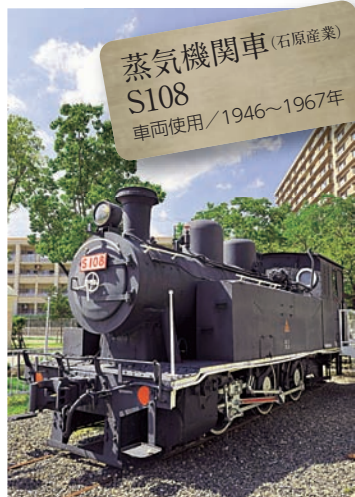
神戸市電1155号
車両使用 / 1956~1971年



▷ 神戸市東灘区本山町4
見学自由(外装のみ) @なし 道案内/電車→JR神戸線摂津本山駅から南へ徒歩約5分 車→阪神高速神戸線深江出入口から北西へ約2分

レールとともに敷石も、当時実際に使われていたものを使用。トレードマークのグリーンのツートンカラーは、神戸市営バスや神戸市営地下鉄に受け継がれている。

第二次世界大戦中に製造された蒸気機関車も園内に保存。大手化学メーカー[石原産業 四日市工場]の専用鉄道として昭和21年から昭和42年まで活躍し、公園に寄贈された。



蒸気機関車 (石原産業)
S108
車両使用 / 1946~1967年